

とちぎの森づくりを
応援しています

有観日本酒 天鷹 醸造元

天鷹酒造
〒324-0411
大田原市観音2166
TEL.0287-98-2107
FAX.0287-98-2108
http://www.tentaka.co.jp/

山と川がもたらした自然の恵み
地熱の家
GEO POWER SYSTEM

栃木県住環境協同組合
〒321-0923
宇都宮市下栗町2301-8
TEL.028-656-1233
FAX.028-656-1690
http://www.geo-power.co.jp/vo/gsonhome/

無垢と漆喰の家づくり
オーガニックスタジオ

オーガニックスタジオ
〒321-0218
下都賀郡壬生町南台2-16-6
TEL.0282-82-8821
FAX.0282-82-8809
http://organic-studio.net

kirinoya
人生を変える家具との出会いを
since 1983

kirinoya
〒321-0214
下都賀郡壬生町壬生甲3848
TEL.0282-82-1345
FAX.0282-82-1501
http://www.kirinoya.co.jp/

Banana works LABO
DI.リフォーム・サンセイ

ドクターリフォーム・サンセイ
〒321-0976
宇都宮市若木町394-5
TEL.028-621-6551
FAX.028-622-2426
https://dr-reform.com/

宮本工業株式会社

宮本工業
〒329-2441
高野郡高野町大字船生9133
TEL.0287-47-1122
FAX.0287-47-1613
http://www.miyamoto-ind.co.jp

皆さんは栃木県の森林率が、どのくらいかご存じですか。県の統計によると約55%で、県土の半分以上を森林が占めています。森林には「水源かん養」、「生物多様性の保全」など公益的機能があり誰もが森林から何らかの恩恵を受けながら暮らしています。その恵みを将来にわたって受けていくには「植えて育てて、伐って利用し、また植える」という森林の循環利用が重要となります。それは山の仕事に携わる人々の努力だけでは成り立ちません。県民一人一人が、その循環の担い手でもあります。栃木県では2008(平成20)年度から「とちぎの元気な森づくり県民税」を導入し、奥山林、里山林整備などハード事業と、人材づくりなどソフト事業の両面でさまざまな取り組みが進められていますが、各地で進められている事業について報告します。

企業と県民協働で「次世代へ残そう! とちぎの自然環境」



ふれあいの森で行われた環境学習会。中村東小の5年生が参加しカブトムシの生息などについて調べた

明るい里山林に再生
ふれあいの森は2010年にとちぎの元気な森づくり県民税を生かし、間伐などを行い整備された約10分の里山林です。

愛称「チャケとカブトムシの森」
クヌギやコナラの木立の中、冬の日差しが敷き詰められた落ち葉のじゅうたんを鮮やかに照らし出し、誘われるように歩み入れればサク、サクと足音が心地よく響きます。ここは真岡市伊勢崎の「ふれあいの森伊勢崎」。同地区と隣接する高勢町の住民有志約100人が、地域の交流の場としてボランティアで維持管理している里山林です。

14人の地権者と管理団体の「ふれあいの森伊勢崎」、高岡市が協定を結び、県民税を活用し間伐などをしました。それまでは、うっそうとした荒れたやぶでしたが、明るく見通しのよい林に生まれ変わりました。組織を立ち上げた当初から会長を務める小山泰明さんは、「両

ふれあいの森伊勢崎(真岡市)



落ち葉をさらう参加者

未来へつなぐ地域の財産



ふれあいの森伊勢崎のメンバー

地区の住民、小学生から高齢者まで多くの人々が触れ合える森として、明るい環境を維持していきたい」と言います。

愛称は「チャケとカブトムシの森」。会員の皆さんは、毎月の清掃活動の他、冬の落葉をさらう、夏の草刈りなど、精力的な活動を継続しています。14日に行った活動では、約40人が参加、落ち葉を腰の高さまで山のように積み上げました。小山会長に聞くと「これはカブトムシの幼虫のためです」。毎年6月に開催する環境学習会で、小学生にカブトムシの生態を通し里山に親しんでもらうための準備です。昨年の「調査」では、多い所では80以上の幼虫が確認され、地域に根付き実を結び、森に集う人々を育成する一助となっています。そうした活動が評価され、16年度の国土緑化推進機構の「ふれあいの森林づくり」表彰で理事長賞を受賞しました。

副会長で伊勢崎の石川渉自治会長は「地域住民が地域の財産として、次の世代へと受け渡すために努力していきたいです。同じく副会長で高勢町地区の今井経夫自治会長は「子どもたちの感性を育てる上でも、この森は大いに役立っていると思います」と話していました。

道路沿いには計画的にアシサイが植栽され、2014年からは「あじさい祭り」を開催するなど地域の活性化にもつながっています。また、高勢町は新興住宅街で県外出身者が多く、両地区間に深い交流はありませんでしたが、ふれあいの森の創造で新たな交流も促され、さまざまな波及効果も生まれています。

間伐材を利用し、やぐらを組み上げ17年ぶりに復活した高勢町の益桶りや、シヤケ栽培グループの発足などもあり、子どもたちの学びの場はもろろん、県民税のまいた種が、地域に根付き実を結び、森に集う人々を育成する一助となっています。そうした活動が評価され、16年度の国土緑化推進機構の「ふれあいの森林づくり」表彰で理事長賞を受賞しました。

副会長で伊勢崎の石川渉自治会長は「地域住民が地域の財産として、次の世代へと受け渡すために努力していきたいです。同じく副会長で高勢町地区の今井経夫自治会長は「子どもたちの感性を育てる上でも、この森は大いに役立っていると思います」と話していました。

認されたそうです。
小学生の学びの場

とちぎ森づくり通信

企画・制作 下野新聞社営業部